

中間総括評価の結果について (第2期 平成24年度～27年度の4年間の評価)

- 第3期 中期目標・中期計画への中間総括評価結果の反映

第3期中期目標の設定にあたっては、今期中期目標期間における
県評価委員会の評価（中間総括評価）等の結果を踏まえ、その
具体を検討する。（PDCAサイクルの徹底）

中間総括評価の結果 (指摘事項)

➤ 中間総括評価(平成24年度～平成27年度)において **指摘された事項** (平成29年3月)

項目	指摘事項
教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ より効果的な一般入学試験となるよう選抜方法の検討 ○ 大学院準備課程(いわゆるM.D.-Ph.D.コース)への参加学生、登録学生数が減少 ○ 低学年(1年次、2年次)の留年者が多い ○ 大学院医学研究科の論文発表数、国際学会発表数が低調
研究	<ul style="list-style-type: none"> ○ PubMed収録英語原著論文数が増加に至っておらず、かつ、科学研究費補助金の交付額も減少傾向
附属病院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県がん診療連携拠点病院として緩和ケア領域の一層の充実(特に緩和ケア病床が小規模で利用率も低い) ○ 平成25年度をピークに認知症に係る研修会や事例検討会の参加者や満足度が逡減傾向 ○ 紀北分院の総合診療医の養成拠点としての実績が不十分
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 経営改善のための事務職員の急性期病院への短期派遣などの検討(病院事務に係る専門性の向上) ○ 査定率低下に向けた事務職員の能力向上など必要な対策(査定率0.8%) ○ 科学研究費補助金の交付額及び採択件数あたりの交付額が逡減傾向 ○ 管理的業務に係る委託費削減額が逡減傾向 ○ 医療用材料及び医薬品の新規採用にあたっての価格交渉などの一層の取組 ○ 後発医薬品の導入推進 ○ 若手研究者の海外派遣や海外の大学等との学術交流、学生交流の実績が不十分 ○ 記者発表等の実績がやや少ない ○ 倫理観やモラルの高揚、法令遵守の徹底にかかる取組の強化

中間総括評価の結果 (評価事項)

➤ 中間総括評価(平成24年度～平成27年度)において **特に評価された事項** (平成29年3月)

項目	評価事項 (特に評価されたもの)
教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語教育の充実を図るため、1年生全員がTOEFLを受験 ○ 医学部において、成績評価について適正な判定を行う制度・体制を整備 ○ 医師国家試験の合格率が平成27年度に新卒者100%、既卒者を含めた全体でも99.1%を達成 ○ 看護師国家試験の合格率が平成25年度を除いて新卒者100%を、また、保健師国家試験の合格率が平成24年度から新卒者100%を維持
研究	<ul style="list-style-type: none"> ○ がんに関する研究において成果 <ul style="list-style-type: none"> ・がんペプチドワクチン療法の医師主導臨床試験の開始 (平成25年度) ・ロボットによる直腸がん手術の導入 (平成26年度) ・がんワクチンの改良に可能性のある研究成果の発表 (平成27年度) など ○ 小児ネフローゼ症候群治療に関する国際的な研究成果を発表 (平成26年度) ○ 臨床研究センターを開設 (平成26年度) し、臨床研究支援に係る体制を整備
附属病院	<ul style="list-style-type: none"> ○ がん診療体制を充実 <ul style="list-style-type: none"> ・手術室及び内視鏡室の増設 (平成25年度) ・化学療法センターの増設、腫瘍内科の開設 (平成26年度) ・緩和ケアセンターの開設 (平成27年度) など ○ 小児医療、周産期医療の体制を充実 <ul style="list-style-type: none"> ・小児医療センターの設置 (平成25年度) ・常時、新生児搬送ドクターカーで対応することができる体制を構築 (平成27年度) など ○ 高度救命救急センターとして十分な機能を果たす ○ より専門的で高水準の医療を患者に提供できる体制を整備 <ul style="list-style-type: none"> ・リウマチ・膠原病科、形成外科の2診療科を開設 (平成27年度) など ○ 地域医療枠、県民医療枠学生・卒業医師のキャリア形成支援に係る様々な取組を実施 ○ 医師臨床研修について、マッチングの成績が常に全国上位を維持